

2009年3月27日

保育園開設のお知らせ

待機児童解消と保育園の質向上への新たな試み**0歳から食育！野菜を育て自給自足、異年齢保育を実践**

環境共生型の認可保育園「キッズプラザアスク七光台保育園」4/1 オープン

～ 地中熱エネルギーでエアコン不要、環境にも配慮した施設 ～

「キッズプラザアスク」などを展開する子育て支援事業の最大手 JP ホールディングス（名古屋市、山口洋 社長、ジャスダック）は、「0歳から食育・環境教育・エコ育」をテーマに、食と自然環境を体感しながら学べる環境共生型の保育園「キッズプラザアスク七光台保育園」を、千葉県野田市に2009年4月1日（水）にオープンします。

待機児童解消には、合わせて保育園の質の向上も必要です。

本園は新たな試みとして、通常の約 1.5 倍の建設費用を投下し、内容・施設・設備・環境において理想の保育を追求します。

教育に自給自足や異年齢保育を取り入れ、施設は建築家・中村勉氏が担当、井戸・山・風車など自然環境を整えるほか、園児の感染症対策にもなる地中熱エネルギーを導入します。



採算を度外視し、今後の民間保育のあり方を模索する旗艦店と位置付け運営します。

施設の特徴

・自給自足	畑で園児が野菜を育て収穫、給食メニューに取り入れます
・異年齢保育	昔ながらの保育に立ち返った、年齢別に教室を分けない保育を実践
・地中熱エネルギー	地下 100m の地中熱エネルギーを利用しながらエアコンの空調設備に頼らない施設設計で CO ₂ を 35%削減、園児の感染症対策にも
・自然環境	井戸・小山・小川・池・風車をつくり、魚を飼うなど環境共生型の施設

■背景 ～保育園開設を国が推進、4月には新たな「保育所保育指針」施行～

ワークライフバランスの浸透で“働く女性”をサポートする体制づくりを強化するため、08年度に厚生労働省が保育園の新設に1000億円を投下することを決定、新園づくりは急務となっています。残業や土日出勤の勤務体系にも対応できる休日保育や一時保育など、サービスの質の向上も望まれています。また、09年4月には大幅な改定がなされた「保育所保育指針」が施行、食育への取り組みが強化されます。

■異年齢保育や体験型保育を実践**昔ながらの異年齢保育で幼児の自主性を養う教育を実践**

2歳～6歳までを年齢別にクラス分けしない異年齢保育を取り入れます。

異年齢保育にすることで、小さい子が年上を見習い・真似をし・学ぶという主体性を育てることができます。また、年上の子は年長者としての意識が芽生え、お手本になるように行動し自立心を養うことにつながります。

一昔前は、多くの兄弟が同居する家庭内や地域ぐるみの交流で、自ずと自立心が芽生え成長することができました。しかし現在は少子化や核家族化が進み、一人っ子やコミュニティのない環境で育つ子が多くなり、個人主義の子どもが増え、周囲への配慮や協同への意識が薄れている傾向にあります。

小さい頃から、年齢を分け隔てず学べる環境をつくることで、子どもたちの中に連帯感など現在の家庭では芽生えにくい意識をつくり、園児が主体的に社会性を育める園にします。

野菜栽培や料理など、体を動かして知る体験型の保育を実践

“知る”ことの大切さを教育方針に、読み・書きではなく、体操教室やリトミック、英会話、クッキング保育、野菜栽培などをプログラムに取り入れ、子供一人一人の成長に合わせた、マニュアル的でない体験型の保育を実践します。

“トイレ育”も

家庭内トイレが洋式になる中、小学校や公園の和式トイレで用を足せない子どもたちが増えています。施設には子供用の和式便器も設置し使い方を教えます。

園を離れても役立つ、実用性のある保育を心掛けます。

■ “食育” へのこだわり

自給自足！子どもが畑で野菜を栽培、給食メニューに

子どもたちに増えている食物アレルギー・小児喘息・突然死などの現代病問題は、昨今の食事情が起因しています。

当園では、近隣の遊休農地を借り、園児が野菜や果物を栽培できる環境を整えます。栽培・収穫したものを園内で調理し、給食のメニューに取り入れます。

当社が展開する既存保育園では、プランターなどで野菜を栽培、給食メニューに取り入れてきました。園児たちは、自身で育てた野菜に関しては好き嫌いなく食べます。

本施設では、栽培から農業へとより大規模に展開し、自給自足型の食事を目指します。食の大切さや食物の有り難さといった“食育”を0歳から学べる環境です。

栄養士による献立を両親に公開

自給自足では足りない食物は産地にこだわり、生産者の顔が見える安心な素材を調理します。味付けと栄養バランスにも最新の注意を払います。

食事の際には栄養士が子どもたちの食べる姿をチェックし、悪食や好き嫌いをなおす工夫をします。また毎月の献立表をHPにアップし、両親も子どもの栄養管理ができる体制を整えます。

“米と水”へのこだわり、100%の「あきたこまち」と純度99.9%の軟水

特にお米は、秋田産100%の「あきたこまち」を使用、契約農家から精米後翌日に届けられ、栄養素の劣化がない鮮度の良いお米を提供します。有機堆肥と有機肥料を使った土壌で、化学合成肥料を現行の1/2に抑え、秋田県農業公社認証の特別栽培にこだわっています。

水は純度99.9%のピュアな使用します。まろやかな軟水は、体内への吸収が速やかで内臓への負担もなく、園児の飲み水や粉ミルク作りに最適です。

環境共生型、エコロジーを学べる施設

井戸・風車・小山・小川・池など、自然を学べる施設

施設は、約370㎡の屋外遊技場内に田舎の裏山をイメージした小山や池、小川をつくり、鯉を飼うほか、実際にポンプで汲み取れる井戸をつくり、自分たちで汲んだ水で野菜を育てるなど、自然や生き物、植物と触れ合える環境です。



また風車を小山につくり、風力発電で水を循環させるなど、エネルギーの循環を体感しながら学べる施設です。

地中熱エネルギーで、CO₂を35%削減

地下100mの地中熱エネルギーを利用した空調システムを導入します。通常の空冷式エアコンに比べてCO₂の排出量を約35%~40%削減するエコロジー効果があります。

子どもたちの温熱環境は全てこの地中エネルギーで対応します。

当社では、500万円を投じこのシステムを導入、エネルギーの循環を子どもたちに知ってもらえる施設にします。



エアコンなしで真冬でも18、空気の循環で感染症対策も

地中熱交換器によって地中から熱を採取しヒートポンプで温水・冷水をつくります。そこに外気を通すことで、真冬でも、室内に約5cm/秒の微風速を1日中送風でき、室温を約18に保つことが可能です。

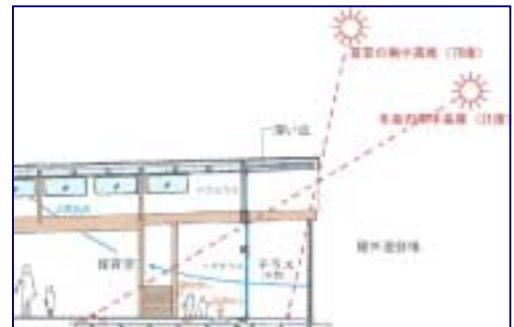
常に新鮮な空気が流れるので、感染症の原因である空気の滞留を防ぎ、子どもの健康面にも最適な設備です。

自然原理を活用し通気性や日射遮蔽・日射導入に優れた施設

施設と施設裏にある里山との温度の高低を生かし、里山から園内に涼しい風が通り抜けるように施設を設計します。従って、真夏でも里山の比較的冷たい空気が施設内に流れ、心地よい風が吹き、エアコンが必要ありません。

また太陽光が入る施設南側には深い庇をつくり、日が高い夏には直射日光が施設に入りにくく、日が低い冬の陽射しは入り易くし、日射遮蔽や日射導入を上手く利用します。

環境のポテンシャルを活用し、柔らかな自然光を取り入れ、エアコンには頼らない、人本来の生活環境をつくりだします。



100%の木造建築で木との触れあい

施設は、北海道や長野産の唐松を使用した100%の木造建築です。園児のシックハウス症候群や化学物質過敏症といった心配がありません。

木造建築の施設は、当社では初めてです。

利用者目線のサービス

“働く女性”を支援

ワークライフバランスの浸透で、働く女性が増えるなか、利用者のご要望にお応えできるよう、延長保育・休日保育・一時保育・子育て支援相談など、充実したサービスを展開します。

一部のサービスは 4/1 以降順次拡充

高いセキュリティと安全な施設、保護者の安心をサービス化

オートロック・IC カードで出入記録を管理するほか、散歩や遠足など園児との外出には、セコムの専用端末「ココセコム」を携帯し、緊急時の対応に備えます。

園内では事故防止に努め、園児の手が届く引き戸部分の端を削ったり、開き戸には両端にアコーディオン式クッションをつけ、指をはさまない配慮をするほか、蛍光灯は一本ずつプラスチックの哺乳瓶と同素材でくるみ、ボールが万一当たっても割れないようにします。

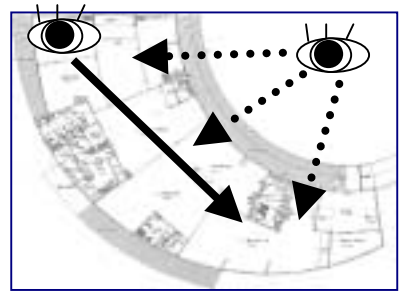
また、窓は、ぶつかっても割れないよう強化ガラスを採用、万一割れても破片が飛び散らない飛散防止対策を施します。床も、転んでケガをしないよう衝撃を和らげるクッションフロアを使用、キッチンには火事や火傷などの事故防止のため、オール電化の調理室を完備します。

保育士の目が行き届く“貝型”の設計

子どもたちが、施設ではなく家に居る感覚で施設に通えるよう、施設全体を包みこむ“貝型”の構造にします。

従って、保育士が園内外から園児の行動に目が行き届き易い環境です。

また異年齢保育を実践するため、中央に園児全員が集まれる遊戯室を配置します。



設計を担当する中村勉氏に関して

建築家・中村勉総合計画事務所所長・ものづくり大学名誉教授



日本建築家協会環境行動委員長を努める。

自然環境との共生、温帯域における半屋外空間の活用などを行い、地球環境を配慮した省エネ型の建築を標榜。「みなと保健所」「菟田野小学校」「余呉やまなみセンターはごろもホール」などを手掛け、学校・福祉・コミュニティ施設の計画を得意とし、住民参加型プロセスを実践、数々の建築賞を受賞。

施設概要

施設名	キッズプラザアスク七光台保育園
所在地	〒278-0046 千葉県野田市谷津 367 番地 [交通]東武野田線 七光台駅より徒歩 3 分
電話番号	04-7126-5221
オープン日	2009 年 4 月 1 日 (水)
開園時間	7:00 ~ 20:00 日曜、祝日、年末年始以外開園
サービス内容	延長保育、一時保育、子育て支援相談
料金体系	野田市規定による
面積	敷地面積：1,728 m ² / 建物面積：497.41 m ² / 屋外遊技場：370 m ²
児童の部屋数	8 ・ 0~1 歳児乳児室・ほふく室 (127.33 m ²) ・ 2 歳児保育室 (50.17 m ²) ・ 3 歳児保育室 (39.04 m ²) ・ 4 歳児保育室 (28.54 m ²) ・ 5 歳児保育室 (31.30 m ²) ・ 一時保育室 (9.64 m ²) ・ 子育て支援コーナー (11.20 m ²) ・ 遊戯室 (52.61 m ²)
設備	1 歳児トイレ・2 歳児トイレ・3~5 歳児トイレ・調理室・調乳室・職員室・医務室・沐浴室・下処理室ほか
保育士数	13 名
設備投資費用	約 1 億 8 千万円
保育園形態	認可保育園
受入れ園児数	60 名
設計士	ものづくり大学名誉教授 中村勉

JP ホールディングス連結企業

社名	事業内容	詳細
(株)日本保育サービス	子育て支援事業	<p>■保育園 利用者のご要望に応じて365日開園といった画期的なサービスも展開。キッズプラザアスクを中心に認可保育園23施設、認証保育園22施設、認定保育園4施設を運営</p> <p>■児童館 指定管理者として児童館8施設を運営</p> <p>■学童クラブ 放課後児童育成事業15施設、厚生労働省が推進する授業終了後の適切な遊び等の場を与える「放課後児童健全育成事業」7施設を運営 ※運営施設数は08年12月末時点</p>
(株)四国保育サービス	子育て支援事業	地元企業と業務提携し四国での子育て支援事業を展開
(株)前進会 2009年4月1日から 「(株)横浜保育サービス」に商号変更	子育て支援事業	神奈川県を中心した保育事業を展開する(株)前進会を子会社化(08年3月)。認可保育園2施設、保育室3室を運営
ジェイ・プランニング	アミューズメント関連事業	アミューズメント施設内でのドリンク&フードサービスほか
ジェイキッチン	飲食と給食の請負事業	給食業務委託、給食に関するアドバイザー
ジェイ・プランニング販売	物品販売事業	オフィスへのコーヒーサービス
(株)ジェイキャスト	業務請負	英語教室・体操教室の請負

JP ホールディングス会社概要

社名	株式会社 JP ホールディングス (ジャスダック：証券コード：2749)
本社	〒461-0004 名古屋市東区葵 3-12-7 あおいビル 6F TEL：052-933-5419 FAX：052-933-5467
支社	東京支社 / 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 高田馬場 216ビル 4F 大阪支社 / 〒541-0059 大阪市中央区博労町 3-6-7 御堂筋三都ビル 205
代表者	代表取締役社長 山口 洋(やまぐち ひろみ)
設立	1993年(平成5年)3月31日
売上高	60億6,200万円(平成20年3月期)
資本金	5億1,379万円
従業員数	724名(連結、平成20年9月現在)
事業内容	子育て支援事業、アミューズメント関連事業、飲食事業および給食の請負事業、物品販売事業
グループ会社	(株)日本保育サービス、(株)四国保育サービス、(株)ジェイ・プランニング、(株)ジェイ・プランニング販売、(株)ジェイキッチン、(株)ジェイキャスト、(株)前進会

報道関係者様からのお問合せ先

(株)JPホールディングス 東京支社
担当：大久保 美穂
TEL：03-5285-2421
FAX：03-5285-7720